

## 社会連携活動の 意識変化

平成23年度の三重大学社会連携研究センターの活動報告書をお届けします。

三重大学は、教育、研究、社会貢献を使命の三本柱と位置づけて活動しています。優れた人材を育成して社会に送り出し、同時に高い研究成果を創出して広く社会に還元し、産官学連携を積極的に推し進めることを目的としています。

私事になりますが、30年以上前、三重大学工学部に赴任することになって初めて津駅に降り立ったときの印象を今でも鮮明に覚えています。当時は目立つ建物はほとんどなく、いかにも寂れた駅前でした。こんな田舎の地方大学にやってきて「私の研究者人生もこれで終わりか!」と正直なところ心底落胆しました。しかし、設立されて10年ばかりの工学部は若い先生が多く大変活発でそんな思いは杞憂に終わりました。私がいた化学系の学科には癖はあるが実力を持った教員が多くいて、私にとっては大変刺激的な毎日でした。当時は、レベルの高い研究を行うことが第一の目標で、それをなしえてこそ学生にも優れた教育が出来る信じている人が大半でした。従って、食うに困らなければ外部と共同研究など連携を持つことはあまり考えなかった様です。事実、校費として研究室に来る運営費も現在よりは遙かに多くありましたし、科研費など文科省の重点予算もかなり取得していて、旧帝大にも決して引けを取らないレベルの高い研究成果を上げていました。

当然社会との連携は大学の大きな使命であることは多くの構成員も理解はしていましたし、活発に活動している教員もいま

たが、共同研究の数など今に比べれば随分少ないものでした。社会連携研究センターの出発点となった地域共同研究センターが設置されたのは平成2年(1990年)のことですが、初代の山本治センター長(現名誉教授)は実績づくりのために、多くの人と共に”共同研究集め”に東奔西走されていたのを思い出します。

現在は、私たち三重大学の構成員の意識は大きく変わりました。社会との連携を深めること、それが多くの方々から三重大学は優れた大学だと支持されることにつながり、三重大学の存在価値をさらに高めるのだとの認識を持つようになってきました。教職員一同、それぞれの分野での連携を通して社会に貢献し、三重大学が地域圏大学を名実共に標榜できるように努力しています。そのことで、以前にも増して、高い研究レベルも維持出来るものと信じています。

本研究報告書は、私たちの1年間の社会連携活動のまとめです。三重大学の教職員による平成23年度の共同研究・受託研究の成果報告、産学官連携アドバイザー・コーディネータ等からの活動報告、当センターの活動報告とともに、社会連携研究センターの概要と利用法等も掲載しています。読者の皆様におかれましては、三重大学の教員の社会連携に関わる研究の一端と当センターの活動をご理解いただくとともに、当センターをこれまで以上に積極的に活用し、実りある成果を上げていただければ誠に幸いです。

三重大学社会連携研究センター長

武田保雄

Yasuo Takeda

